

編集後記

看護界では、「ケアリング」という概念が定着してきました。多くの先人が、「ケアリング」は看護においてなくてはならないものであり、看護師と患者の間に存在し、患者にケアを提供することで看護師も成長するという意味ももつと述べています。確かにその通りだと思います。しかし、自分はその言語がうまれた本来の意味をきちんと理解して使用しているだろうかと不安になります。福沢諭吉は「学問のすすめ」の中で、「世話」は、保護という意味と命令（指図、制限）という意味があり、両方を備えてはじめて「真によき世話」と述べています。看護は、「世話」を日々行っていますが、この両面のバランスを客観的に認識しながら行っているでしょうか。ややもすると、命令の側面を保護で覆い隠して自分に納得させてはいないでしょうか。誰かを支えようとする人が一番支えを必要としているといわれるように、両側面の良さや課題を認識し、気負わずあるがままに看護を実践していくことが不安解消の光となると納得しました。

さて、東邦看護学会は、東邦看護研究会から学会へ発展して6年目を迎えました。本誌は、平成24年12月より機関リポジトリへの登録を開始し、これまでにダウンロードされた件数は、平成25年（1月～12月）4,604件、平成26年（1月～12月）9,468件、そして平成27年（1月～12月）は19,982件にも及びます。東邦学内だけではなく、国内他大学、医療関連団体、教育委員会、国内企業、地方公共機関、そして海外から幅広く閲覧して頂いております。本誌13号には、研究報告5編、実践報告1編、資料1編を掲載しております。この場を活用し、「世話」の実際や日々気になっている課題への取り組みを発信してください。

最後になりましたが、査読者の皆様には大変お忙しい中、論文掲載に向けてご協力をいただきましたこと深く感謝申し上げます。

村上 好恵

編集委員会

委員長	村上 好恵	(東邦大学看護学部)
委員	山田 緑	(東邦大学看護学部)
	遠藤 敏子	(東邦大学医療センター大橋病院)
	ケニヨン充子	(東邦大学看護学部)
	都橋 薫	(東邦大学法人本部看護企画室)
	新田 汐里	(東邦大学看護学部)
	橋本 裕	(東邦大学医療センター大森病院)
	門田 昌子	(東邦大学医療センター佐倉病院)

東邦看護学会誌 第13号 2016

発行	平成28年3月
発行者	横井郁子
編集者	村上好恵
発行所	東邦看護学会 〒143-0015 東京都大田区大森西4-16-20 東邦大学看護学部 TEL 03 (3762) 9881
印刷	神谷印刷(株) 〒115-0043 東京都北区神谷1-20-8 TEL 03 (3912) 2571